

KANAZAWA COLLEGE OF ART
NEW CAMPUS PLAN

金沢美術工芸大学 移転整備基本計画

概要版

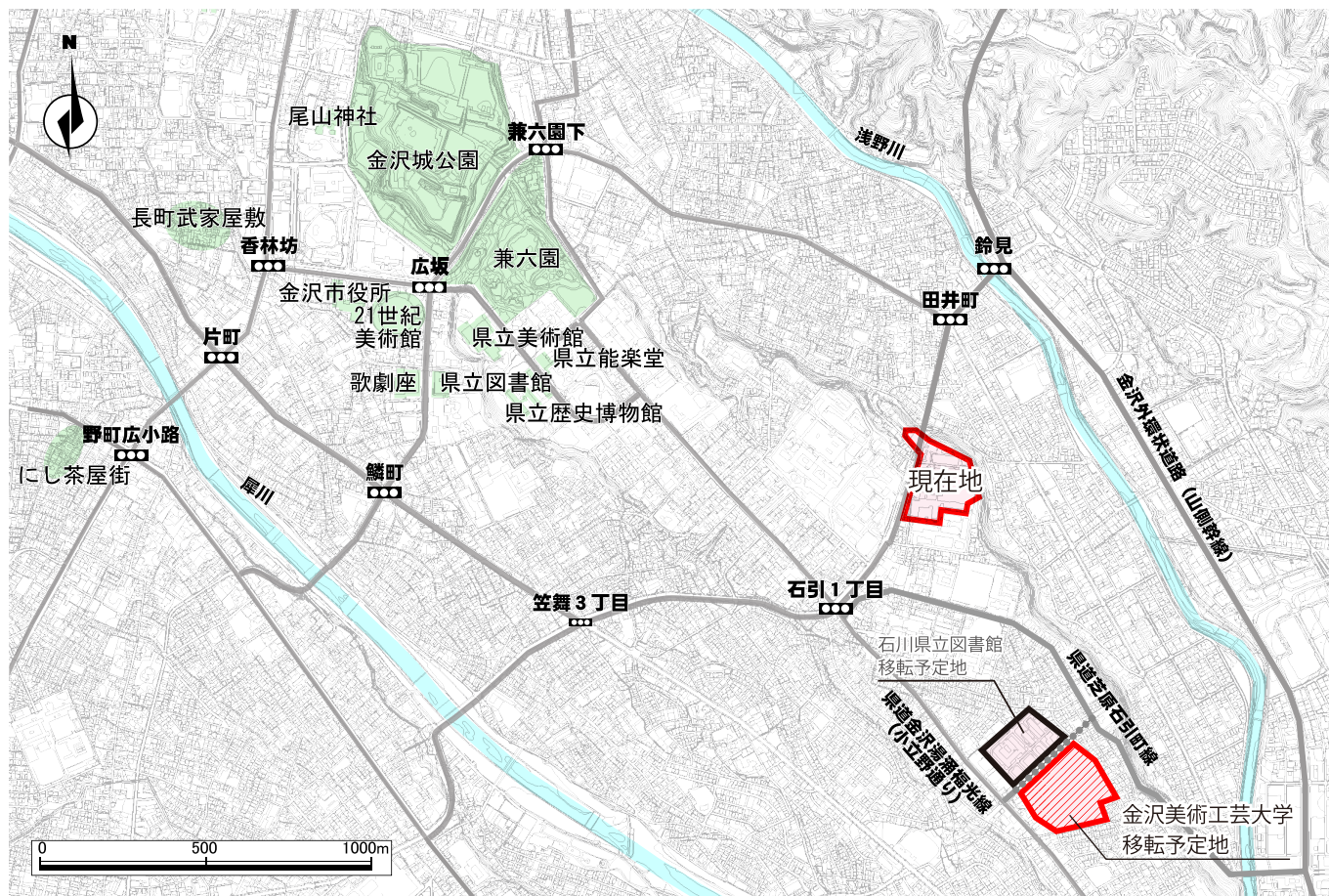
金沢市

1 計画策定の趣旨

金沢美術工芸大学は、1946年（昭和21年）に金沢美術工芸専門学校として開校以来、美術・工芸・デザインの各分野において、個性豊かな教育等に取り組み、国内外の文化・芸術の発展を支えてきました。しかしながら、現キャンパスは老朽化が進み、また、教室や作業スペースも十分に確保できない状況にあります。

そこで、昨年度、金沢美術工芸大学のさらなる発展と本市がめざす世界の「交流拠点都市金沢」の実現に向けて、金沢大学工学部跡地への移転整備に向けた「金沢美術工芸大学移転整備基本構想」を策定しました。

本計画では、基本構想を踏まえ、新キャンパスのコンセプトや具体的な諸室の整備方針、施設配置等を示しており、今後、「世界の交流拠点都市金沢」の一翼を担う「金沢から世界に拓く 美と知の創造拠点」及び「地域と学生をつなぐキャンパス」の実現に向けた移転整備事業を進めます。



<移転予定地の概要>

移転予定地は、これまで90年近く教育機関が立地してきました。

全体の敷地面積：約8.4ha

本市取得予定面積：約4.7ha

用途地域：第二種中高層住居専用地域（建ぺい率：60%、容積率：200%）

高度地区：15m

2 キャンパス整備のコンセプト

「開かれた美の探求と創造のコミュニティ」

基本構想で定めた「基本理念を実現するための施設整備方針」に基づき、キャンパス整備のコンセプトを「開かれた美の探求と創造のコミュニティ」と定めて、様々な領域の垣根を越えて交流する教育研究を推進し、地域や世界に開かれた、美の探求と創造のコミュニティとしてのキャンパスを実現します。

「基本理念を実現するための施設整備方針」（基本構想より）

方針1：未来を担う人材育成拠点

世界で活躍する人材の育成、芸術教育の基盤となる学部教育の環境整備、将来を見据えたメディア機能充実、高度な社会人教育と外国人留学生を含めた生涯学習推進により、未来を担う人材育成拠点の形成をめざします。

方針2：世界に飛翔する美と知の研究拠点

文化芸術の研究拠点としての大学院、国際交流の強化、産業との連携により、世界に飛翔する美と知の研究拠点の形成をめざします。

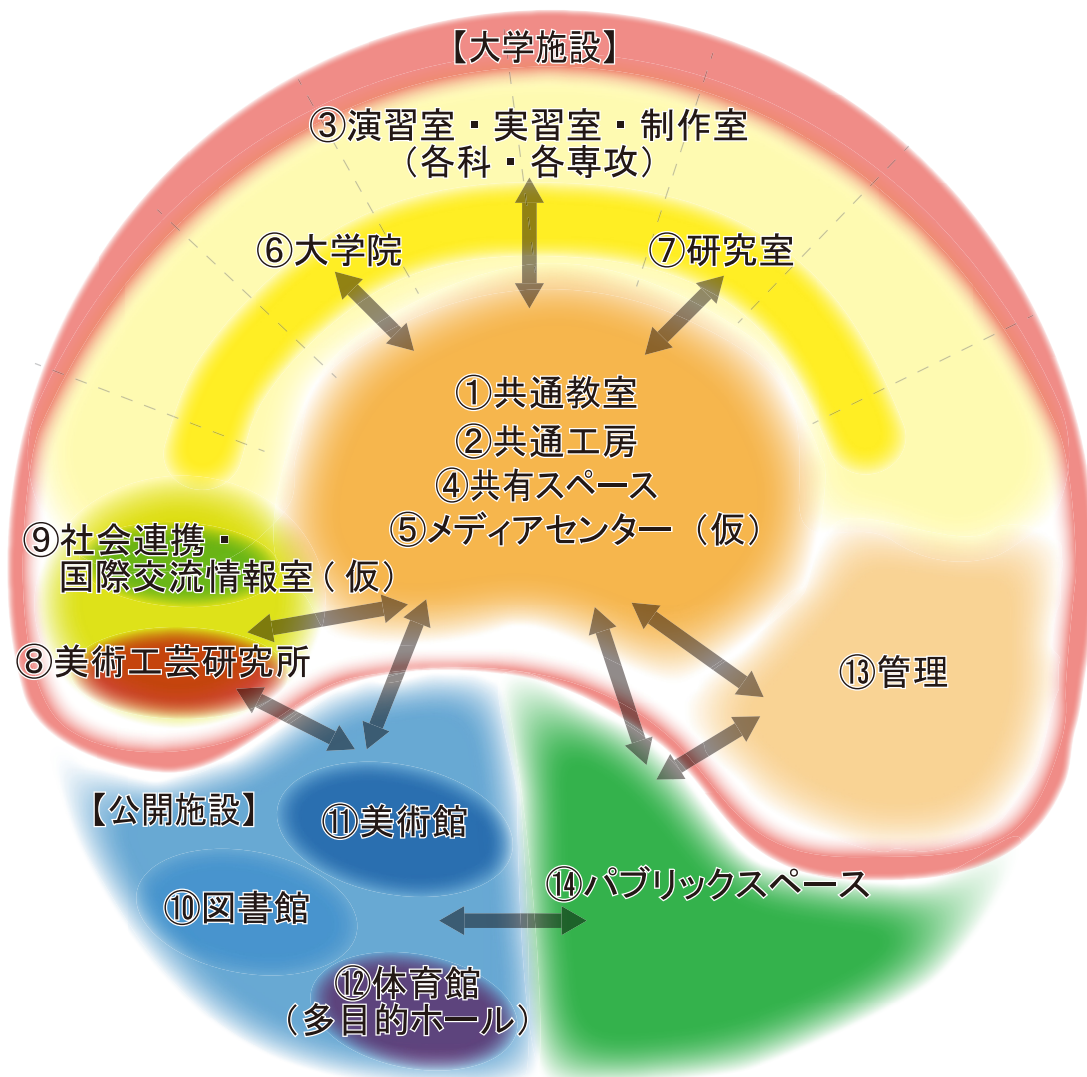
方針3：地域に開かれた文化芸術の交流拠点

文化芸術の発信拠点と市民に開かれたコミュニティ空間、地域連携のさらなる充実、文教地区にふさわしい地域環境の形成、まちなかにおける活動拠点により、地域に開かれた文化芸術の交流拠点の形成をめざします。

3 諸室の整備方針

(1) 機能配置の概念

機能配置の概念は、キャンパス整備のコンセプト「開かれた美の探求と創造のコミュニティ」を踏まえ、学内での交流のシンボルとなる共通工房や共有スペース、地域との接点となる公開施設やパブリックスペースを基点として、様々な視点を兼ね備えた人材の育成、地域社会への貢献に寄与するものとします。



(2) 諸室カテゴリーごとの整備方針

諸室カテゴリーごとの整備方針は、各諸室の主となる機能を基本構想における整備方針との整合性を図りつつ、次のとおり整理しました。

方針1 未来を担う人材育成拠点

① 共通教室（講義室・演習室等）

- ・グループワークや講演会など、使用人数に応じた大小様々な講義室を整備します。
- ・参加型をはじめとする多様な講義や演習に対応するため、空間的、設備的にフレキシブルなスペースとします。
- ・社会人や子ども向けの市民講座、高大接続授業等にも活用できるものとします。

② 共通工房（実習室・制作室等）

- ・専攻を問わず使用する工具や機材を集約し、効率化を図りながら、クリエイティブなアイデアを検証、具現化するための設備環境とします。
- ・専攻の枠を越えて使用できる空間、安全で利用しやすい環境とし、学生間の交流を促進するスペースとします。
- ・社会人や子ども向けの市民講座、高大接続授業等にも活用できるものとします。

③ 演習室・実習室・制作室（各科・各専攻）

- ・各科・各専攻の演習や実習、制作、合評等の多様な授業が可能で、クリエイティブな発想を促す空間を整備します。
- ・制作で使用する材料や機材の保管、搬出入に配慮した配置にするとともに、安全ならびに周辺への環境に配慮した構造・設備とします。
- ・制作内容の変化や技術の進歩等に柔軟に対応できるようフレキシブルな空間と設備を整備します。

④ 共有スペース（展示・講評会・研究会等）

- ・公開形式の展示やプレゼンテーション、講評会や研究会等を可能とする学外に開かれたフレキシブルな空間とします。

⑤ メディアセンター（仮）

- ・大学が所蔵する各種のアーカイブ、知的財産等のデジタルメディアを含む情報全般を俯瞰的に捉え、管理・活用する機能を整備します。
- ・映像表現やアニメーションなど、メディア芸術分野の教育強化のため、多様なメディア環境に対応すべく、各種設備を設けます。

方針② 世界に飛翔する美と知の研究拠点

⑥大学院

- ・造形芸術に関する高度な理論、技術及び応用を研究教授し、芸術の多様な領域で横断的に活躍できる高度専門職業人を育成するために、大学院研究科における教育研究の向上を見据えた機能と環境を整備します。
- ・学生の専門性の深化に加え、様々な分野との横断や連携を促進させ、自由で多様な独創性を実現できるスペースを確保するとともに、創造的な感性が磨かれる空間とします。
- ・大学院を大学の研究拠点と位置づけ、その成果を社会や世界へ発信できる環境とします。

⑦研究室

- ・専任教員の研究活動を深められるよう、教員個々の研究室のほか、教員と学生や学外の研究者等が共に活動できる研究スペースを設けます。

⑧美術工芸研究所

- ・国内外の研究者や専門家が集い、交流できる美と知の創造拠点としての環境を整備します。
- ・教員や専門家の研究活動を支援し、大学独自の研究を推進するための機能を整備します。
- ・美術・工芸・デザイン資料の収集を行うとともに、大学の研究成果を蓄積し、公開・還元するための機能を整備します。

⑨社会連携・国際交流情報室（仮）

- ・企業等の産業界や地域との連携、各種プロジェクト及び国際交流事業や海外留学をサポートできる環境を整備するとともに、その成果を発信するスペースを設けます。

方針③ 地域に開かれた文化芸術の交流拠点

⑩図書館

- ・ 閲覧スペースを充実するとともに、ラーニングコモンズ等の機能を充実させ、自学自習やグループ学習のためのスペースを設けます。
- ・ 美術・工芸・デザイン関連においては、北陸随一の11万冊を超える蔵書の検索システムの充実や将来の蔵書の増加を見据えた書庫を整備します。

⑪美術館

- ・ 大学で所蔵する作品を展示公開し、気軽に美に触れることができる空間とします。
- ・ 絵画や彫刻、工芸をはじめ、メディア系やデザイン系等の様々な展示内容に対応できるスペースを設け、展示環境を整備します。
- ・ 工芸の素材と技法の標本である「平成の百工比照」をはじめ、伝統から先端まで、素材等のアーカイブを充実させるとともに機能を整備します。
- ・ 学生の教育研究に活用できるスペース及び温湿度に配慮が必要な作品等の収蔵スペースを設けます。

⑫体育館（多目的ホール）

- ・ 大学関係者や市民が各種競技や式典、集会、展示など、様々な用途で利用できる汎用性の高い多目的ホールとして整備します。
- ・ 災害時に避難所として使用することを踏まえ、敷地内の配置に配慮します。

その他

⑬管理

- ・ 学生が主体的な学びや団らん等ができる様々なフリースペースをキャンパス内の随所に設けます。
- ・ 学生生活を充実したものとするため、学生相談やキャリア支援のスペースを充実します。
- ・ 学生だけでなく市民も気軽に利用でき、営業時間外も憩いの場となるような食堂を整備します。

⑭パブリックスペース

- ・ 休憩だけでなく、学内や地域によるイベント、野外展示等の様々な活動ができるよう、北陸の気候に配慮した空間を整備します。

4 施設配置計画の考え方

施設配置計画は、基本構想における整備の方向性や整備方針、本計画のキャンパス整備のコンセプト等を踏まえ、配置の考え方を整理し、3つのイメージを例示します。

【配置の考え方】

- ・各施設の機能の関連性を踏まえ、有機的かつ効率的な配置とします。
- ・事務局や食堂など、大学関係者が使用する施設はキャンパス内でのアクセス、利便性に配慮した配置とします。
- ・キャンパス内は歩車分離とするほか、道路や隣地の境界に塀等の工作物の設置を最低限とするなど、安心して快適に歩ける環境とします。
- ・敷地が広大であることから、ランドスケープとしても周辺地区と調和のとれたデザインとします。
- ・金沢大学工学部跡地を横断するアクセス道路に面して、学生や教職員、市民が気軽に利用できるパブリックスペースを設けます。
- ・移転予定地の外周部には、緩衝緑地帯を設け、地域の植生や自然観察ができるビオトープ、芸術と自然との関係が学習できる空間のほか、地域の貢献につながる空間の形成に努めます。
- ・移転予定地周辺には、国史跡の辰巳用水が流れており、その用水に沿って、周辺住民が気軽に散策できる遊歩道を整備します。

(注) 今後、設計者の提案を踏まえ、金沢美術工芸大学と意見交換をしながら、配置を検討していくこととしており、これらのイメージは設計案として限定するものではありません。

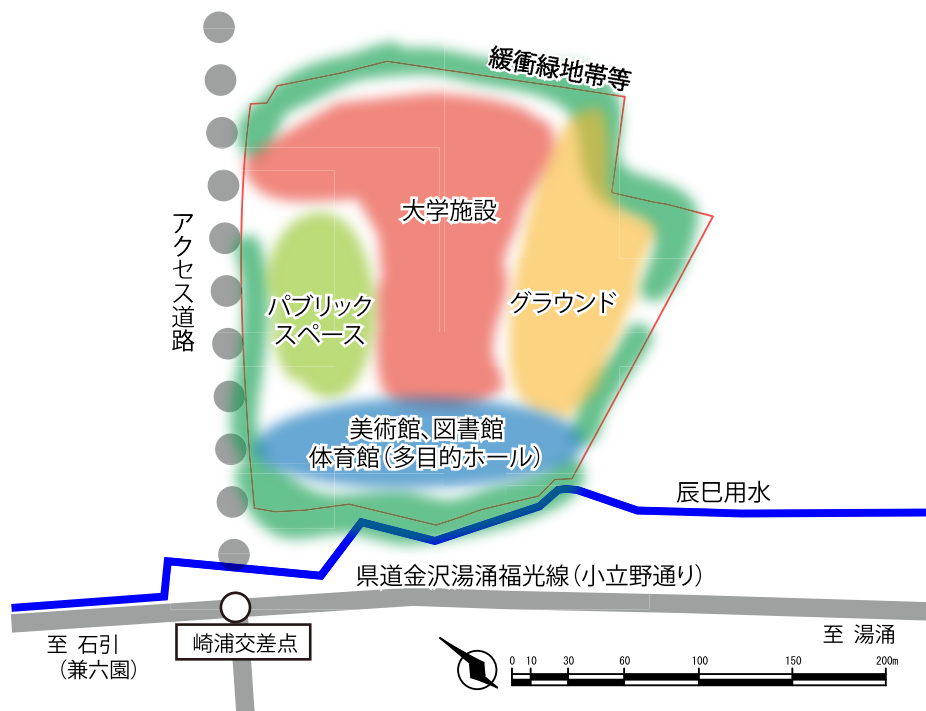
配置イメージ1

- ・アクセス道路に面して美術館、図書館、体育館（多目的ホール）を集約して配置
- ・小立野通り側及び辰巳用水側に地域の賑わい拠点となるパブリックスペースを配置



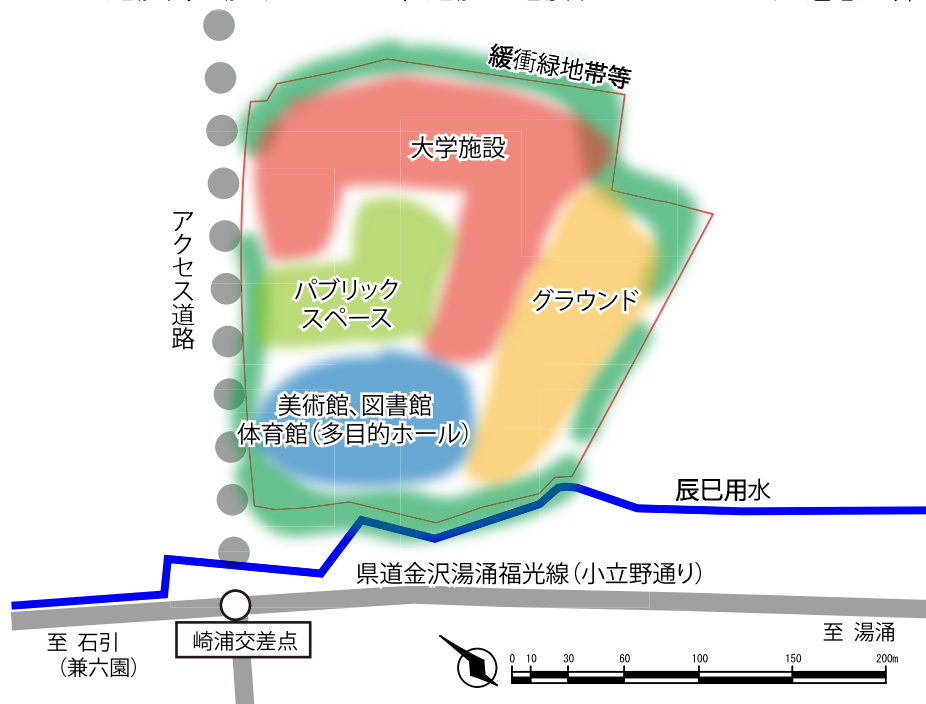
配置イメージ2

- ・自然と触れあいやすい辰巳用水側に美術館、図書館、体育館（多目的ホール）を集約して配置
- ・アクセス道路側中央にエントランス機能を兼ねたパブリックスペースを設け、ゆとりある空間を形成



配置イメージ3

- ・パブリックスペースの拠点性や学生と市民による賑わい創出の相乗効果を高めるため、周囲に大学施設や美術館、図書館、体育館（多目的ホール）を配置
- ・パブリックスペースを施設間に設けることで、施設が近接することによる圧迫感を抑制



5 施設整備に対する留意事項

金沢美術工芸大学の学生・教職員が安全に安心して教育、研究に取り組み、地域と連携したまちづくりに寄与できるよう「安全性」「地域性」に配慮し、「金沢から世界に拓く 美と知の創造拠点」「地域と学生をつなぐキャンパス」の実現を図ります。また、長期的な大学運営を見据え、「持続可能性」に配慮した施設整備に取り組みます。

(1) 安全性（防災、防犯、ユニバーサルデザイン）

●防災

- ・自然災害に対し、学生、教職員の安全や知的財産の喪失防止を含め、教育研究活動の継続性を確保するとともに、被災時には地域住民の避難所として使用することから、建物は「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準（平成25年版）」の基準にて整備を行います。
- ・避難所として使用する際の資材等を保管する備蓄倉庫の整備や、避難者が使用するマンホールトイレ等の整備を行います。
- ・大雨時の下水道等への影響を最小限とするため、敷地内に雨水の貯留施設を設けるなど、雨水排水の対策を行います。

●防犯

- ・開かれたキャンパスの実現から、市民が利用するゾーンと学生をはじめとする大学関係者しか利用できないゾーンの区分けを行い、ゾーンに応じたセキュリティレベルを設定し、防犯に配慮した配置計画とします。
- ・学生が夜間や休日にも使用できるように、入退室記録や防犯カメラ等の設備導入を検討します。
- ・学内の情報環境の整備に合わせ、アクセス権限を設定するなど、情報セキュリティの強化に対応した設備を設置します。



入室管理の例（同志社女子大学）

●ユニバーサルデザイン

- ・性別、年齢、国籍、障害の有無を問わず、様々な人が安心して利用し、学ぶことができるよう、ユニバーサルデザインに配慮した施設整備を行います。
- ・トイレについては、市で定めた「金沢これからのトイレ基準」に基づき、整備を行います。



多くの人が利用できるように設計されたトイレの例

出典：TOTO 株式会社

(2) 地域性（景観・地場振興）

●景観

- ・施設の外観は金沢らしさを考慮した新たなシンボルとなる意匠とします。
- ・隣接する石川県立図書館をはじめ、周辺環境に配慮したランドスケープとします。
- ・移転予定地周辺へ圧迫感を与えないよう、施設の配置や高さに配慮します。
- ・駐車場や駐輪場は各施設からの利便性を確保しつつ、外部からは見えにくい配置や植栽を設けるなど、景観に配慮して整備します。
- ・移転予定地は風致地区に挟まれた地域であり、積極的に緑化を行うなど、良好な自然環境との調和を意識して整備します。



辰巳用水

●地場振興

- ・「金沢市公共建築物・公共土木工事等における木材利用方針」に基づき、金沢産材の利用に努めます。

(3) 持続可能性（ライフサイクルコスト、環境、排水・騒音等）

●ライフサイクルコスト

- ・建物内部は多様化するニーズに柔軟に対応するため、ゆとりある階高とするなど、融通性がある設計とします。
- ・使用する材料は耐久性の高いものを採用するなど、長寿命化に配慮し、メンテナンスにかかるコストの軽減を図る設計とします。
- ・メカニカルシャフトや共同溝等を設置することで、各種設備が更新、修繕しやすい設計にするとともに、将来の機能増強を見据えた設計とします。
- ・新たな機能を付加する際の増築等をあらかじめ見込んだ設計とします。

●環境

- ・LED照明の導入や消費電力量の可視化等による省エネ機能の向上を図ります。
- ・採光や換気等にはパッシブデザインを積極的に採用し、各種設備の負荷軽減を図ります。
- ・「金沢市地球温暖化対策実行計画」、「金沢市再生可能エネルギー導入プラン」に基づき、再生可能エネルギー等の導入をはじめとして、環境に配慮した整備を行います。

●排水・騒音等

- ・制作の際に発生する汚水や廃棄物は、含まれる有害物質等で処理方法が異なることから、適正に処理できるよう、関係諸室の集約化や処理設備の導入等の対策を講じます。
- ・石彫や金工等の作品制作時に発生する音に対し、周辺の住環境や他の教育研究活動への影響が軽減できるよう、制作室の配置に配慮するとともに、防音対策を行います。
- ・作品制作で発生する臭いや粉じんに対し、周辺住民や使用する学生等への影響を軽減できるよう、対策を行います。

